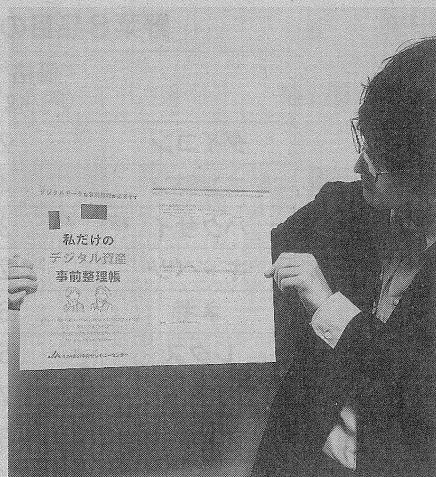


終活 デジタル資産も

J A「事前整理帳」を作成

【東京中央】JA東京中央セシモノセンターは、「私だけのデジタル資産事前整理帳」を作成し、デジタル資産に対応した終活サポートをしている。葬儀を引き受ける中で、遺族がインターネット上にある資産の相続に困る姿を見かけ、冊子の作成に踏み切った。



見やすさを重視して文字も大きくした「私だけのデジタル資産事前整理帳」(東京都世田谷区で)

購入しサブスクのサービスやパスワードのパスワード管理などを記す箇所もある。

個人情報流出への注意も促す。保管先は重要な情報を引き継ぐ人だけに共有し、紛失、盗難などのトラブルに巻き込まれないよう管理・保管することを赤く大きな字で記した。丹野監査役は「残さ

れた家族が困らないことが一番大切。常に進化を続けてこれまでにないサービスを提供し、利用者に寄り添った葬儀を提供していきたい」と話した。

JA店舗営業企画宣
伝課の遠藤博規課長は「故人にデジタル資産があることを知らなかったり、サブスクを解約できず支払い続けたりと、現代社会ならではの問題が起きています。常に情報を収集して工夫し、時代に合ったサポートをしていきたい」と語った。

JA共済連は2日、東京都千代田区のJA共済ビルで、新入職員の入会式を開いた。全国本部46人、都道府県本部105人の計151人が参加。青江伯夫会長がエールを送り、新入職員の代表者が決

勤務時の服装自由

折りで、終活セミナーの参加者約1200人に郵送した他、セミナーで配布していく。丹野浩成監査役が発案し、IT事業部が載せる情報を収集・吟味して約3カ月で完成させた。冊子にはパソコンやスマートフォン、タブレット端末、メール、交流サイト(SNS)、金融・保険サービスなどのログインIDとパスワード、決済方法などが記せる。他にも契約するサブスクリプション(月額

ネット銀行の預貯金口座、電子マネーやキャッシュレス決済のチャージ残高、株式、投資信託、外国為替証拠金取引(FX)、仮想通貨などのデジタル資産は、所有者が亡くなると相続の対象となり、相続税が発生する。JAは2017年に作った終活ノートの一部に、デジタル資産に関する整理メモを収録。時代背景や利用者のニーズに添え、独立した冊子にすることに決めた。フルカラー三つ



【ふくい】JA福井県とJA県中央会、連合会は1日、職員の勤務時の服装自由化を始めた。男性は原則ノーネクタイとし、女性は私服または既存の制服着用も可能とした。働き方改革に伴い、全国で服装に対する考え方が多様化していることを鑑み、自由な発想や価値観を尊重する職場づくりに取り組む。

JA福井県など 4月から働き方改革

に制服を廃止していることに加え、ジェンダー平等の観点から自由化を検討した。また、JA福井県の労働組合も昨年、職員に服装に関するアンケートを行い、自由化を役員に提案した。アンケートでは賛成派、反対派ともさまざまな意見があったため、制服を即廃止とはしなかった。

JA、JA県5連共通部署の人事局が定めたガイドラインでは、勤務場所や業務内容を踏まえた身だしなみを基本とし、デニム素材やパーカー類など、カジュアル過ぎるものは避けるべきとした。

ネクタイの有無や私服、制服を自由に選んで着用するJA職員(福井市で)